



個人と企業の成長につなげる「人生100年時代の社会人基礎力」

「社会人基礎力」とは、考え抜く力、チームで働く力、前に踏み出す力の3つの能力（12の能力要素）から構成され、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として経済産業省が2006年から提唱し推進している概念である。

企業や若者を取り巻く環境変化により、基礎学力や専門知識に加え、それらをうまく活用していくための社会人基礎力を意識的に育成していくことが重要となっており、大学教育で同基礎力を育成・評価するカリキュラムが一部取り入れられるなど、徐々に社会に浸透を見せている。

そうした中、2018年3月に同省では、「人生100年時代」を踏まえ、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるための力として、「人生100年時代の社会人基礎力（仮称）」と銘打ってこの力の再定義を行った。

具体的には、社会人基礎力をベースとしつつ、能力を発揮するにあたって、学び（何を学ぶか）、組合せ（どのように学ぶか）、目的（どう活躍す

るか）という3つの視点のバランスを図ることが、自らのキャリアを切りひらいていく上で必要であると位置付けている。

この検討が行われた同省の「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」で報告されたアンケート調査結果によると、「若いほど“学び直し”に意欲的だが長時間労働や費用の自己負担面に課題あり」「半数以上の人为实现したい仕事やキャリアへの希望がなく、理由は時間的・心理的余裕がないため」「働き手の7割は自分のキャリアやスキルの棚卸しをしたことがない。棚卸しの研修等の機会が企業から与えられている人は非常に少ない」などの課題が明らかになったという。

企業の成長には働き手各個人の成長が不可欠である。個人の成長につながる手厚い支援の実施、定期的なリフレクション（自己振り返り）の機会提供によるキャリアやスキルの棚卸しの援助、多様なフィードバックの積み重ねによる効果的な気づきの促進などの配慮が企業側には求められ、働き手側にもこの基礎力の視点で自らのキャリアを切り開く姿勢が必要となろう。（吉村謙一）

社会人基礎力（3つの能力・12の能力要素）と今回新たに加わった3つの視点

考え抜く力（シンキング）

- 課題発見力** 考え抜く力、問題発見能力、システムとして物事を考える力、ソーシャルとビジネスを融合する力、見えないものが見える力
- 計画力** 高い倫理観を持ち正しい選択をする力、詰める力、金融的投資能力、未来を予想する力
- 創造力** 抽象思考力、価値判断力

チームで働く力（チームワーク）

- 発信力** **(※)** 協業力、ネットワーキング行動、多様な人たちの繋がり、パートナー力、相手との壁を越えて多様性を活かす対話力、人間関係資本、関係構築能力、異文化集団に飛び込み（混沌、未知、異文化を受け入れ）信頼を勝ち得る（周囲を巻き込む）力
- 傾聴力**
- 柔軟性** 変化に前向きに対処する力、
- 状況把握力** 感情を学ぶ、EQ（Emotional Intelligence Quotient）、情緒的資本
- 規律性** シチズンシップ、高い倫理観を持ち正しい選択をする力
- ストレスコントロール力** Work As Life

前に踏み出す力（アクション）

- 主体性** 変化に前向きに対処する力、範囲を限定せずに主体的に動く力
- 働きかけ力** **(※)** 協業力、ネットワーキング行動、多様な人たちの繋がり、パートナー力、相手との壁を越えて多様性を活かす対話力、人間関係資本、関係構築能力、異文化集団に飛び込み（混沌、未知、異文化を受け入れ）信頼を勝ち得る（周囲を巻き込む）力
- 実行力** 詰める力、やり切る力、組織に隷属せず高い志を持ちピンで立てる力、チャレンジする力

新たな3つの視点

- 何を学ぶか** 学び続ける力、「OS」と「アプリ」、マインドセットとキャリアオーナーシップ
- どのように学ぶか** リフレクションと体験・実践、多様な能力を組み合わせる
- どう活躍するか** 自己実現や社会貢献に向けて、企業内外で主体的にキャリアを切りひらいていく

（出典）経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力について」（2018年2月）